



地域医療連携ネットワーク実践学寄附講座

1. スタッフ

特任准教授 いづみ ゆういちろう 泉 裕一郎
特任助教 23名

2. 寄附講座の特徴

熊本県の人口は減少傾向にある一方、75歳以上の人口は2040年まで増加することから、今後、更なる医療需要の増大が見込まれる。そんな中、熊本県内の医師の6割は熊本市に集中するため、多くの地域で医師不足が問題となっており、医師の確保は喫緊の課題である。しかし、医師の労働環境への不安や専門医志向の高まりから、今後も地域勤務が敬遠され、10年後には若手・中堅医師の確保が困難となることが予想される。これらの課題に対応し、地域において安定的かつ持続的な高い水準の医療体制を維持するためには、各圏域の拠点病院（熊本県地域医療拠点病院）を中心に医療機関等が連携し、医師派遣や人材育成等を行う新たな地域医療連携ネットワークを構築する必要がある。

本講座は、そのような地域医療連携構想を推進するために2019年4月1日に熊本県からの寄附により設置された。各診療科より各医療圏域の拠点病院へ派遣された当講座の特任教員（ネットワーク推進医）は、同じく各診療科より派遣され、ネットワーク推進医に任命される常勤・非常勤医師と連携し、専門医療を実践する。また、医師会や行政と協力しながら地域医療連携強化に努め、各医療圏域の現状分析と新たな連携策に関する検討等を行っている。

3. 地域医療への貢献

本年度は、熊本県内の地域医療拠点病院に内科部門から12名（呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、血液内科、膠原病内科、糖尿病・代謝・内分泌内科、腎臓内科）、外科（婦人科除く）部門から4名（消化器外科、乳腺・内分泌外科、泌尿器科）、成育医療部門から2名（小児科）、感覚・運動部門から5名（整形外科、眼科）、脳・神経・精神部門から1名（神経精神科）のネットワーク推進医が派遣された。各地域医療拠点病院に、不足する診療科を専門とするネットワーク推進医が配置され、週1

～2回定期的に専門医療の実践と、専攻医などの若手医師への技術指導を行った。近隣のクリニックより紹介された患者へ適切な医療を提供し、さらに専門的な診断や治療を要する場合は、より高度な医療機関へ紹介をする橋渡しの役割を担った。また、地域の医師やメディカルスタッフを対象とした講演会や勉強会を開催し、専門的知識の普及に努めた。さらに、ICT（Information and Communication Technology）を活用した医療情報連携ネットワークであるくまもとメディカルネットワーク（KMN）の各施設における普及支援を行った。当講座の活動は、患者への地域完結型の質の高い医療や、より高度な医療の提供に貢献したものと考える。

4. 臨床・研究活動

本年度は、ネットワーク推進医による事業検討会を2回開催した。検討会では、各医療圏域の現状と課題が報告され、解決策などが検討された。その中で、熊本県の地域医療において、ネットワーク推進医による専門医療の実践が、医師不足の解消のみならず、医療圏域全体の医療連携を促進し、有用であることが報告された。一方で、今後、患者の高齢化がさらに進むと、多くの合併症を複数診療科でケアする状況が増え、単一施設での対応が困難となることが想定される。そこで、同じ医療圏域の施設が、不足する医療資源を互いに補完する体制の強化が提案された。

また、KMNの普及支援については、拠点病院ごとのKMN新規参加者数・文書送受信数・医師署名の利用状況などの調査を行った。その結果、施設間で差はあるものの、文書送受信の利用が活発化してきていることが確認された。さらに、「KMNに関する地域医療拠点病院とのWEB会議」を立ち上げた。会議は、熊本市内の施設にもご参加いただき、KMNの利用体制の構築におけるあらゆる問題点を提起、共有し、具体的な対策を検討、提案する場として、年度内に2回開催した。次年度も継続的に開催する予定である。